

全学内部質保証委員会検証における意見への対応

部局等：リカレント教育推進本部

評価結果における意見等 (※問題点や改善を要する事項、改善が望まれる事項等)	対応状況
<p>附属リカレント研修センターの在り方や構成員の役割の再検討が必要である。</p>	<p>「産学官金連携によるふくい型アプレンティスキュリア形成プログラム」(令和3～5年度)、「未来協働プラットフォームふくい・実行部門会議1(学生教育/社会人教育)」によるリスキリングプログラム(令和5年度～)等、これまで実施されてきたリカレント教育においては、地域連携推進課、基金事務局等、事業の担当部署が組織間の調整を行い、かつ効率的であったため、附属リカレント研修センターについて、センター要項第6条に規定する運営委員会は開催されていない。</p> <p>令和7年2月、「福井大学におけるリカレント教育推進に関する方向性」の策定後、プログラムの学内募集を行った令和7年度「未来協働プラットフォームふくい・実行部門会議1(学生教育/社会人教育)」によるリスキリングプログラムについては、リスキリング教育の推進に積極的な教員の協力により、一部講座での受講料の設定、また、企業等のニーズにマッチし、当該企業等の社員・職員を対象としたプログラム(オーダーメイド型リスキリングプログラム)の開設等を実現し、受講者数の大幅な増加に繋がっている(令和6年度比112名の増加)。また、講座内容についても、受講者から概ね高い評価を得ている。</p> <p>これらのプログラムの実施にあたっては、県からの予算に基づき、担当講座の時間数に応じ、講座担当教員へのインセンティブを措置しており、教員へのサポートに大きく寄与している。</p> <p>今後は、令和7年度のリスキリングプログラムの実施により得られた成果、ノウハウ等の知見を踏まえ、インセンティブ等の教員に対するメリットについての情報共有を図りながら、プログラム担当教員の拡大を行い、附属リカレント研修センター運営委員会において、リカレント教育の推進について議論・検討を行っていききたい。</p>